

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200057		
法人名	(有)テクノライン		
事業所名	すこやかほ一む七山		
所在地	佐賀県唐津市七山滝川1001		
自己評価作成日	令和4年2月4日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和4年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七山の自然豊かな環境の中、地域の皆様とのコミュニケーション作りを心掛けております。27名の入居者様と、レク活動 家族会、お誕生日会などの施設行事などのときは、たくさんの方が参加がありましたが、今年は、コロナ対策にて中止しております。身体拘束0を目指して取り組みに日々励んでおります。身体拘束廃止委員会を設置して、毎月1度勉強会時に話し合いの場を持ち3カ月に1度、話し合いをまとめた議事録を作成し、日々職員の意識を高めております。又、今年の取り組みでは、生き方ノートの研修を受けて入居者様一人一人のノートの作成の取り組みをしたいと思っております。コロナウイルス感染予防対策では、検温、消毒、換気チェックシートの記入の取り組みをして外部からの面会中止しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには、温泉や清流もあり自然豊かな景観に恵まれた場所に佇むホームである。訪問して一番に感じたことは『OPEN』であるということ。玄関は施錠をせず、気持ちや和む植物や音楽が流れており、入居者も職員も心地よく過ごせ、誰でも気軽に行き来ができる雰囲気があった。また、生活の場としての本人の選択と自己決定を大切に支援に取り組む姿勢をすべてに感じることができた。開設当初より、指摘を受けた事柄の改善に努め、関係者との信頼関係も深まっている。コロナウイルス感染の対応で中断している活動もあるが、地域の中で、福祉について考える場所として、災害時の協力や交流の場所として、ホームの役割が広がりが発展している姿を感じることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	ユニット名	ユニット名	ユニット名		ユニット名	ユニット名	ユニット名
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	○	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	○				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者中心の生活支援基盤にした分、分かりやすく覚えやすい理念を上げその理念のもとに職員が取り組んでいる。毎朝声を合わせて唱和しています	理念は職員と意見を出し合い作成。誰もが親しみやすい内容で、毎朝唱和し、全職員が身につけている。支援計画書の作成や日頃の介護の際に振り返り、統一したケアになるよう理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加を通じ地域の中にとけ込むように努め、地域の方の来訪や、相談が自由に行える開放的な施設づくりに努めています	開かれた玄関は心地よい音楽が流れており、手入れの行き届いた観葉植物が設置され、訪問したくなるような工夫と心配りが随所に施されている。日頃から地域住民と親しく交流しており、年々地域との交流の輪は広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃利用するスーパーや近所にも公友的なイメージを保たれており自然に協力関係が保たれている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で上がった意見を反映させる取り組みがあります	定期的な会議の開催で、ホームのサービス向上に限らず、地域情報の共有、認知症ケアへの理解等地域にとっても意義のある会議に発展している。会議の様子は写真に収め、誰もが見ることが出来る工夫もなされている。しかし、書面開催時に会議メンバーから意見を収集する仕組みが不十分である。	コロナ禍で資料配布し書面開催となる機会も発生している。このため、書面開催時にも意見を聴取出来る仕組み作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	唐津市役所の介護保険担当の方と連絡相談を密に取り組み、協力関係を築けている。事故報告書の提出もこまめに行う	市との双方向の情報共有ができています。生きがいノート作成や、認知症サポーター養成研修の開催等、良好な協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修にて勉強し意識を高めています。現在身体拘束0ケアにて取り組んでいます	身体拘束は行っていない。毎月勉強会を行い、日頃のケアを振り返り全職員で身体拘束をしないケアの実践への理解を深めている。また、過剰な介護とならないよう、「転ぶ自由」が入居者にあることを家族に丁寧に説明し、話し合いながら支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて虐待の無い、起こらない施設をつくりたい。毎月1回アンケートを実施する事で初心にかえります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利について社内研修、外部研修会の参加にて勉強する成年後見人制度の利用の事例を通じて勉強し後見人との連絡を密に取り入れ支援に努めます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	補足資料を作成し十分な説明を行い理解納得を図っている。又、重度化された場合の対応についても入居時に説明します		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をはじめ、行事等交流する機会を持ち又、日々の面会時にその都度意見交換する事で検討や相談を行い問題解決を図られている。	日頃から入居者、家族の意見、要望の把握に努め、毎回、得られた内容への返事や対応を家族に届けている。常に信頼感と安心感を築くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて意見交換する取り組みがある。運営管理者、現場の職員全体でホーム運営の向上に取り組んでいる	管理者が日頃からホーム内を巡回し、職員の意見や提案を聞き取るよう努めている。意見や提案は勉強会にて共有し、運営改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている週に3日は、訪問され、現場の状況や職員の勤務態度を見られ入居者一人一人に声を掛けられて表情を見たり居室内の環境整備を見られます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加して、研修報告書の提出。新人職員教育の実習、月1回		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度グループホーム連絡会に参加し地域の同業者医療施設等のネットワークを広めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話の内容表情動作などの観察を常に行い本人が困っている事に気づき職員全体でケアに取り組みます。生活歴に心がけ安心と信頼関係に努めます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より随時相談を受けその後も少しの状況変化の報告し、家族本人の困りごとを把握支援する。面会頻度の少ない家族にはこまめに連絡を行い面会に来て頂くようお願いいたします		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント結果の把握と情報共有を行い等施設や地域包括支援センター等の紹介資料を渡しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活として入居者本位のケアを継続して実地する為定期的に職員で話し合い本人の話を傾聴し意見を聞きながら入居者が毎日充実感を得るよう支援します。それに伴い信頼関係も築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設の際家族様の労をねぎらい話を聞く。家族と共に目標を達成していけるよう努めています。面会時間24時間体制や、いつでもお泊りして頂ける環境は、大変喜ばれています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への報告連絡をこまめに行い外出、外食など自由にできるように支援しています。馴染みの方々にも面会のお願等しています。	入居前の近隣者や知人等が気軽にホームへ来所している。コロナ禍の為外出の機会は減ったが、馴染み関係性が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を把握しながら程良い距離感を持ちホーム内の友人関係を築きます。3ユニットでの行き来も気分転換になられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的に次の転移先、入院先が決まってからの退去となります。その後も必要に応じて相談に応じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別レク担当職員の配置にて、月単位で目標を立てて評価を行い、その後のケアに反映させている。	生きかたノートの作成を通じ、本人・家族の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。生きかたノートには思い出の写真も添付し、ノートを手にした人が入居者の人となりをつくみ取れるよう工夫し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の性格や生活歴を大切にして普段の声かけや夜間の対応に配慮している。アセスメントやサマリーを入居後の生活に生かしている。室内配置や、好みの物に配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員の配置と日頃の観察にて情報の共有に努め、申し送りノートの活用や、勉強会での話し合いをする。個別ケアに力を入れています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回サービス担当者会議や全体会議において、問題が発生した時点で話し合い適切なプラン実行に努めている。三カ月に一回プラン見直しを行い、本人家族に相談し、介護計画書の作成をする。	各入居者に担当者を置き、意見を収集し、チームで介護計画を作成している。3ヶ月に一度は、本人・家族を含め聞き取りを行い、評価し、現状に合わせた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、特記事項必ず朝の申し送り、夜勤スタッフにも情報を伝える。毎日個別ケア、ケアプラン実施記録を付けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状で出来る事に取り組んでいる。個別ケアの実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々、七山保育園、ボランティアなど、たくさんの交流があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切に内科主治医、他科の医師により症状に応じた適切な医療を受けていただく	本人・家族が希望するかかりつけ医を選択することが出来る。家族で対応が困難な場合も医療機関までの送迎を支援する等、適切な医療が受けられるよう努めている。病院受診も本人と家族の大切な関わりの時間と捉え、家族での受診がスムーズに行えるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医の看護師と連携をとり健康管理の支援をしています。月に二回の往診対応や受診対応をして、体調の変化に気づきます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院関係者との情報交換相談に、取り組み特に受診入院歴のある病院や、入退所のかかわった病院とは連携を深める		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の方針等について、医師を、交えて話し合いの場を持ちます。こまめに話し合いの場を持ち対応しています。	嘱託医と連携を密にしながら、ホームでの看取りを行っている。生きかたノートを活用し、終末期の意向やホームで支援が出来ない場合のスムーズな引継ぎに活かしている。3ユニットで連携できる夜勤体制の強みがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早く主治医に伝える。救急搬送先の確認を日頃から行う。救急時対応マニュアル、急カードの活用をする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に地域の人の協力を得られるように日頃から声かけを行い夜間想定、昼間の避難訓練の実施を行う。	夜間想定を含め、年2回の定期的な火災避難訓練を実施している。地元消防団や住民の参加もあり、指摘を受けた事柄は改善し、より簡易で安全な避難方法に更新する等、訓練を活かす取り組みもなされている。しかし、夜勤専門職員が訓練に未参加である。	夜勤専門職員が訓練に参加する機会を設け、より安全な避難体制を築かれるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接待マナーの再度徹底と周知を図り、日頃の言葉かけや介護について意識を高めるよう努めている。個人情報の取り扱いやプライバシーの保護について慎重に行っている。	入居者の尊厳を保つよう、入居者個々人の性格や周囲の環境にも配慮した言葉かけを行っている。毎月、チェックリストを用いて、馴れ合いの中でプライバシーを損ねていないか振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を基本に本人が希望される事や出来る事をしてもらう事で達成感を得られる事を促す。その際は納得されてから実地する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整える事を前提にゆっくり声かけし、何をしたいか聞き実行する。意思疎通の難しい方には本人の気持ちを汲み取る姿勢で対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問ヘアーカットを利用する方もあれば、行きつけの美容室に行かれる方もある。清潔に気を配り個人のオシャレを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、職員一緒に後片付け、洗物、トイレ拭き、台拭き、洗濯物たたみ、など出来る事を日常的に行っている。	入居者と食事の準備を一緒に行い、食事が楽しみになるよう支援に努めている。食事を自由に選べることを大切にし、コロナ禍終後は、食品の移動販売車を利用した買い物支援を再開する予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々で対応している。嚥みにくい方、飲み込みの悪い方、発熱、下痢等状態の悪い方にはとろみをつけたり、刻み食、ミキサー食、お粥を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実行、訪問歯科受診、居宅療養管理指導を受けたり、研修を行い、口腔ケアの重要性を理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介護はサインを見逃さず、臨機応変に失敗しない様に支援し、入居者が不快なく、気持ちよく排泄出来るよう職員の意識作りに努めている。排泄パターンが把握できるよう記録をつけ、ナースコール、センサーを活用している。	定時のトイレ誘導支援に加え、入居者の行動の変化を見逃さず、細やかな声掛けで自立した排泄に繋げている。排泄チェック表を利用し、本人や職員と情報を共有することで、失敗を減らす工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分補給、腹部マッサージ、生活リズムの安定に努めている。排泄表の活用で確認を行い、記録する。ヨーグルト、バナナ等おやつを工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりコミュニケーションをとりながら実施している。自立支援にて出来ない所を手伝っている。混乱なく規則正しく平等に入浴できるよう、曜日と時間を決めている。	入浴は週2～3日を基本に、入居者の希望と体調面に考慮しながら臨機応変に対応している。ホームが趣向を凝らすだけでなく、入居者からゆずの提供があったりと、双方で入浴を楽しむための取り組みがなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動量を充分に取り、安眠を促す。巡視時、随時安否の確認を行い、環境面にも配慮している。不眠持続時は主治医と相談し適切な薬が処方される。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	セットする際や、服薬前の名前日付の確認等常にミスの無いように心掛けている。服薬担当者はケース記録に名前をサインする。個人別の薬保管棚を使用する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を生かし、実施している。洗濯物たたみ、しまっている昔話をみんなで話したり、天気の良い日には庭の散歩をしたり、近所の足湯に浸かりに行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって天気のいい時は散歩に行ったり、公園、足湯、観音の滝を見に行ったり外出しているが、今年介護福祉車両を購入してからは、車椅子の方も気軽にお出かけ出来るようになり、楽しみが増えました。	近隣に花見を行える場所が多くあり、日頃からタイミングをみて出かけている。コロナ禍終息後は、入居者や家族の希望に沿った遠出支援の再開を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様によって自分でお金を持っている方、ホームへ小口現金の預り金を頼んである方、すべてを家族が管理されている方、様々な対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ対応している。携帯電話をお持ちの方、手紙を出したい方にもお手伝いをしながら支援し、返事が届いた時も必ず本人様に届けている。職員と一緒に読む事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、昼間カーテンをオープンにする。季節の物を壁に貼ったり、入居者様の作成物を展示するようにしている。入居者様が好まれる歌のCD等を準備して提供している。	ホーム内には窓からの光が差し込み明るく、外を眺めれば季節の変化を感じることが出来る。地域の新聞等も掲示されており、近隣とのつながりを感じる工夫がなされている。好みの音楽を流し、ハワイの温度(暖かすぎず、寒すぎず)を心がけ、掃除も細目に行い、心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部にソファを置いたり、和みの空間作りをしている。季節に合ったディスプレイを入居者様と共に作り、共用空間に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が今まで使っていた馴染みの物(タンス、洋服、椅子等)持ってきて使用される方もいるが、新しく買われる方も多い。	壁紙が部屋ごとに違うため、一目で自分の居室を視認することが出来る。使い慣れた家具等を持ち込み、個性あふれる居室づくりがなされている。家具の配置も入居者が違和感を感じないように配慮し、安心してその人らしく過ごせるよう支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止を意識し、居室の家具配置やベッドの位置工夫を行っている。居室には表札を付けている。必要な方には「トイレ」と貼り紙をしている。		